

平成28年度自己評価結果公表シート

作成 大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」つまり、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の資質向上や環境構成を目指す。

- ・幼児期に大切な教育と保護者理解の研修を行う。
- ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、危機管理に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・教師の子ども理解・資質向上を目指し、園内研修の充実に取り組み、各種研修会へも積極的に参加し、自己研鑽と共通理解に努めている。	カリキュラムを見直し、子どもの興味に即したねらいを設けた。ねらい達成にむけて、実際の保育を全教員で見る研修を行い、自身の保育の様子や子どもの姿について意見交換や保育の振り返りに努めた。また、教育方針の再確認と共通理解を行い、教師力・保育力の資質向上に努めた。
・保護者とのコミュニケーション作りに努め、子どもの育ちや幼稚園の教育方針への理解・連携を構築していく。	・HPやSNS媒体を利用して、保護者はもちろん、園に興味をもっている方等へ日々の保育の様子や出来事を伝えた。登降園時には、個々の子どもの成長の様子を話したりして、保護者とのコミュニケーション作りを積極的に行った。 ・園に関するアンケートの内容を見直し、実施した。結果をふまえ、より保護者の思いや要望をきくようにした。
・樟蔭学園との連携。	年間を通して大阪樟蔭女子大学児童学部の実習生・ボランティア学生の受け入れ、樟蔭高校児童教育コースの体験実習も引き続き行った。大阪樟蔭女子大学教員による保育を積極的に取り入れ、子どもの体験が深まるよう努めた。樟蔭学園との連携を通して、たくさんの人とのかかわりをもつ機会を設けた。
・危機管理の充実。	園内の危険箇所の点検・修理を行い、子どもが安全に、そして安心して過ごせるようにした。また、教員の危機管理意識の再確認を行うと共に、研修に行ったり計画の見直しをしたりした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・研修や振り返りを定期的に行うことで、教師一人ひとりの保育に対する意識が高まった。引き続き取り組んでいきたい。
- ・幼稚園アンケートを実施したことにより、保護者の思いや要望を知ることができ、良かった。園が大切にしているところを残しながら、よりよい園作りを目指していく必要がある。
- ・大学・高校・中学の教員・学生・生徒等、たくさんの人にかかわることができるのは、附属園だからこそである。今後も連携を大切にしながら人的環境作りに取り組んでいきたい。
- ・危険箇所が修繕され、子どもが過ごしやすい環境が整った。引き続き、定期的な点検を行い、よりよい環境作りに努める。教員一人ひとりの危機管理意識が高まった。やるべきことが見えてきたので、今後に繋げていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼稚園の教育理念の周知方法	在園児だけでなく、たくさんの人に園に興味をもってもらえるよう、HPやSNSの活用方法を検討する。また、広告や大学のイベントを利用する。
系列校との連携強化	大学の研究に積極的に参加することで、子どもが様々な体験や人とのかかわりができるようにする。また、教員も研究に携わることによって日々の保育の資質向上に繋げていく。
危機管理の対応	今後の課題を精査し、教員や子どもに対する防犯教室の開催や訓練の変更・実施等を検討する。

6. 学校関係者よりの意見（平成29年3月21日実施）

- ・教員間の共通理解ができており、安心感がある。
- ・地域との交流を考える。
- ・大学附属であることをいかす。
- ・園の良いところは残しつつ、保護者の意見を取り入れて、新たな取り組みをしてくれる。
- ・この幼児期に、子どもが自由に取り組むことができるところが良い。
- ・園の方針が伝わりにくいので、発信の仕方、広報の仕方を見直したらどうか。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。